

### —関係部署—

泉州救命救急センター
外 科
初療・手術室
救命 ICU

### —概要—

当院では2012年8月に全国初の「Acute Care Surgery センター」を設立した。

Acute Care Surgeryという領域は、欧米において新たに確立した一領域で、2005年に米国外傷外科学会が「重症体幹部外傷」、「救急外科」、「外科的集中治療」の3つを柱とした外科の一領域として提唱したものである。日本においても2009年にAcute Care Surgery研究会が発足し(2013年1月には日本Acute Care Surgery学会へ発展)、今後日本においてますます発展していく一領域と考えられている。現在まで本邦にはこれを臨床実践する診療科は存在しなかったが、全国に先駆けて本邦初の「Acute Care Surgery センター」を設立した。この反響は大きく日本全国から注目を集めるとともに、Acute Care Surgeryを志す若手の医師が集まるようになってきた。現在、17名のAcute Care Surgeonが所属している。

当センターの特徴について述べる。当院内の「重症外傷センター」(泉州救命救急センター内に設置)内における初期診療の中で、特に胸部腹部における手術適応例に対して迅速に手術を開始する。当センターの初療・手術室では、救急患者搬入直後から手術を開始することのできる体制があり、24時間365日、常に緊急手術のための手術室が確保されている。このため、重症腹部外傷患者(non-responder)であれば、搬入から16分(中央値)で手術を開始することができる。心停止が切迫している重篤な患者に対する蘇生的開胸術は搬入とほぼ同時に開始可能である。また、近年では、外傷症例に特化したドクターカー事業を行っている。ドクターカーにより当センターの外科医が現場におもむくことにより、患者の病院到着を待つことなく、現場での必要な外科的処置を実施することができる。

2つ目の「救急外科」は、いわゆる急性腹症症例から軟部組織感染症によるガス壊疽など緊急で手術対応を要する外科的疾患をその領域としている。急性腹症においては急性虫垂炎から重症敗血症を伴う腹膜炎まで幅広く対

応している。特に集中治療を要するような重篤な疾患群に関しては泉州救命救急センターの専門スタッフが対応している。さらに、重篤なショック状態を伴う急性腹症症例に関しては、積極的にダメージコントロール手術を行い、これまで救命不能と考えられていた症例の救命例も増えている。

3つ目の「外科的集中治療」では重篤な外傷手術例や救急外科症例のうち集中治療管理を要するものに対して適切な全身管理を行っている。

これら3つの領域をバランス良く行うことで日本におけるAcute Care Surgeryの中心的役割を担うべく、日々診療に取り組んでいる。

### —実績—

Acute Care Surgeryセンター開設以来、症例数は年々増加の傾向にある。昨年一年間で外傷関連手術をのべ200例、救急外科関連手術をのべ292例実施している。